

むさしの健幸アンバサダーによる Health for All

研究員：中板育美、田中笑子、遠山寛子、橋本結花、
渡邊千秋、廣瀬絢加、佐藤睦子、川南公代、
山本摂子、峰友紗、明石修
学生：2022年度ゼミ生 36名他



「むさしの健幸アンバサダー¹」は、人々の健康としあわせに関心を持つ学生が、活動を通して自身の健幸を創りだす力を高め、加えて学部横断かつ産官学民協働による相互作用を活用し、他者に健康情報を届ける力を育む活動です。

2022年度は、看護学部地域・在宅看護領域のゼミ生(36名)と教員で、共創型アクションリサーチ(健幸アンバサダーの養成、活動媒体の作成と認証、媒体の全国配信)を行いました。

36名中21名は、健康アンバサダーのアドバンスドコースとして、「ファシリテーター(講師)養成講座」を受講し認定資格を取得し、うち3名が、看護学科2年生126名に対して健幸情報発信と拡散の実践を行いました。黎明祭では、看護学部公認団体である「なーすのたまご」のメンバー24名とも協力し、受験生41名、他学部・他大学の学生、大人から子どもまで総勢291名の来場者に健幸情報と伝えました。学生主体のヘルスプロモーション実践活動として

日本公衆衛生看護学会でも紹介されています²。

また今年度の学生は、最新の予防知識や情報伝達技術を学んだのち、主ターゲットを同年代に決め、「白い歯が見える笑顔」をテーマにしました。歯周病ケアを前面に出しても主ターゲットの心に届かないと考えた結果です。白い歯と笑顔で予防的取組みが促され、成人・高齢期のオーラルヘルスに繋がることにも触れています。人が望ましい行動をとれるように導くアプローチ(nudge)が活用されています。

昨年度に引き続き、認証審査を経て、全国の自治体や企業と協力しながら、健康に無関心な層へ情報が届くことを期待します。

「健幸アンバサダー活動」を通じて、身近な健幸を考える仲間を増やし、健康の享受を導くことは、健康の先にあるWell-being(しあわせ)をカタチにするプロセスであり、SDGsゴール3「Health for All」そのものと考えています。

認証審査に合格し全国配布されているパンフレット



¹ 健幸アンバサダーとは：健康に関する正しい知識などを身近な人に伝える健康の伝道師。自分自身と大切な家族や知人などに「心に届く健康情報」を伝え、健康づくりの輪を広げていくもの。一般社団法人スマートウエル

ネスコミュニティ協議会主催の養成講座を受講し、公式に「健幸アンバサダー」の認定を受ける。

² 日本公衆衛生看護学会 HP

https://japhn.jp/activity_photos